

屋島寺宝物館

屋島寺宝物館は、本堂のすぐそばにあり、寺の長い歴史の中で蓄積されてきたさまざまな重要な遺物や工芸品を展示している。仏像や掛け軸、屏風などが含まれている。

展示品の多くは、源平合戦（1180～1185 年）の終盤に源氏が平氏を破った日本史の重要な局面である屋島の戦い（1185 年）に関連するものである。狩野探信（1653-1718）の 2 枚の絵巻物は、源氏の射手である那須与一（伝 1169-1232）が、退却する平氏の船に掲げられた扇に伝説の矢を放つ場面を 1 つの場面として描いている。

展示品の中には、与一の子孫から寄贈された白い旗もある。この白旗は、降伏を意味するものではなく、源氏が戦時中に掲げていた戦闘用の旗である。

僧侶の空海（774-835）が彫ったとされる屋島寺の千手観音像も宝物館に所蔵されている。さらに、土佐光起（1617-1691）による、屋島の戦いそのものを描いた有名な屏風や様々な掛け軸などもある。